

駐日ラテンアメリカ大使インタビュー <第5回 コロンビア>

カルデナス駐日コロンビア大使  
アジア太平洋地域を重視するコロンビア  
ーコロンビアは米州進出のゲートウエーー



コロンビア共和国のパトリシア・カルデナス・サンタマリア駐日大使は、このほどラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、コロンビアの経済情勢、治安情勢、対アジア太平洋政策、対日関係などについて見解を表明した。

大使はロス・アンデス大学産業工学部卒、英国オックスフォード大学大学院で経済開発学を専攻。ボゴタ市会議員、歴代の財務大臣顧問、銀行協会およびコロンビア金融機関(Asobancaria)の会長等を歴任した。

大使はインタビューにおいて、サントス現政権の対日重視の姿勢を強調するとともに、昨年両国間で投資保護協定が締結され、近く EPA（経済連携協定）締結交渉に入る予定であるとして、今後の両国間貿易・投資の拡大に期待を表明した。また、コロンビアとしては二重課税防止条約の交渉の再開も希望している旨述べた。

コロンビア経済については伝統的に採用している堅

実、オーソドックスな政策により安定的成長を続けており、治安についてはサントス大統領の現政権がウリベ前政権から踏襲した 10 年間の政策が奏功し、格段に改善していると述べた。さらに、コロンビアは「太平洋同盟」の加盟国であり、また TPP 加盟を申請中であり、その地理的位置、「法の支配」の重視、労働力の質、健全な経済政策などから特にアジア諸国の米州進出のためのゲートウエーである点を強調した。インタビューの一問一答は次のとおり。

ー 大使は日本に着任されて 4 年あまりになられますが、駐日大使としてこれまでに一番力を入れられたのはどのような点でしょうか。また今後はどのようなことに重点を置くおつもりですか。

**大使** 2007 年に着任以来、政治、経済、経済協力、文化等あらゆる分野における二国間関係の強化に努めてきました。政治面ではサントス大統領の訪日を早い時期に実現するとともに、この 5 年間にすべての外相が訪日、現外相は 2 度訪日しており、これはコロンビアの対日重視の姿勢の表れです。経済面では貿易と投資の増進に努めてきました。今後は日本との EPA（経済連携協定）の早期締結を目指すこと、また昨年署名された投資協定を最大限活かしつつ日本からの投資を促進すること、そして防災、生産性その他日本から学ぶべきことは多々あり、科学技術協力の進展にも期待しています。

ー コロンビアは 1980 年代の中南米債務危機にも唯一債務繰延を行わず、一貫してプラス成長を記録し、堅実な経済運営と良好なパフォーマンスを誇ってきました。現在は石油や石炭の開発が進んでいると聞きましたが、コロンビアの経済状況の現状はいかがですか。

**大使** 仰るとおり、コロンビアは堅実かつ誠実で、厳格な経済運営を行っており、現況はきわめて好調と言えるでしょう。伝統的に堅実かつオーソドックスな経済運営を行っていることもあり、コロンビア経済は安定的成長を遂げています。2008 年の世界金融危機の影響をほとんど受けなかったのは健全な財政と潤沢な外貨準備によるもので、ここ数年世界の平均よりも高い経済成長率を維持しています。コロンビア経済はインフラ部門、サービス部門、工業、観光、農業、豊かな天然資源等幅広い分野に支えられております。天然資源ではご指摘のとおり、鉱業・石炭・石油（日量100万バレルまで達成可能な潜在力を持つ）の分野において近年大きな進展がありました。国際機関等もコロンビア経済は今後も安定的成長を達成すると予測しています。コロンビアの人口は約4,700万人ですが、近年中産階層が増え、これが国内需要を急速に伸ばしており、外資にとって魅力的な市場となっています。ちなみに昨年の外資流入額は150億ドルに達し、2010年比で倍増しています。

— ウリベ大統領、サントス大統領が進めてきた治安対策でコロンビアの治安は随分と改善され、折からの資源ブームもあって海外からの投資も増え、ボゴタの街は華やかでいると聞きますが、他方でコロンビア革命軍および国民解放軍等の非合法武装勢力が存在し、国境地帯を中心とした地方では依然として治安に対する脅威があるといわれていますが、現状と見通しはいかがでしょう。

**大使** 短期間に治安をこれだけ抜本的に改善できた国は少ないと思います。確かに10年前までのコロンビアはゲリラ・麻薬取引の問題が複雑でした。しかしウリベ政権(2002～10)は治安回復を最優先の政策に掲げ、しかもそれを国軍のみならず社会の協力を得て“民主的”に実現する実に思いきった措置をとりました。その結果コロンビアの治安は格段に改善し、サントス現政権もウリベ政権の路線を引き継いでいます。もちろん未だやるべきことは残されていますが、サントス大統領も治安の一層の改善に全面的にコミットしており、すべての国民がどこにいても安心して生活できるまで

は休まないと述べています。特に民主化と雇用増大に努めることにより治安改善を図りたいと考えています。統計上も殺人件数は過去27年で最低に減っています。また、都会のみならず地方、国境地帯の治安改善のための種々のプログラムも実施されており、将来の見通しについてもかなり楽観し得ると考えます。

— メキシコ、ペルー、チリおよびコロンビアの4カ国（パナマ、コスタリカはオブザーバー）による「太平洋同盟(Alianza del Pacífico)」は、2011年4月のリマ宣言において、アジア太平洋地域との政治経済関係を強化することを明確にしています。「太平洋同盟」の今後をどう見ておられますか、また日本・コロンビア間EPA締結の見通しは如何ですか。

**大使** コロンビア政府はアジア太平洋地域を重視しており、常に同地域の一員として参画することを重要な外交政策の一つとしていますので、この「太平洋同盟」構想には率先して参加したわけです。その設立の際の会議には日本、オーストラリアおよびカナダが特別招待国として招かれましたが、日本の同会議への出席は非常に意義深いものでした。

「太平洋同盟」を構成する4カ国はいずれも堅実で、政策に同質性があり、FTAにより既に4カ国間の経済統合はかなり進んでいますので、この「同盟」はアジア太平洋地域との経済、貿易関係を展開するための足場としてコロンビアにとって重要な役割を果たすでしょう。また4カ国のうちペルー、チリは既に環太平洋経済連携協定(TPP)に参加し、メキシコも参加の意向を表明していますので、コロンビアの同協定への参加を容易にしてくれるでしょう。

4カ国が構成するこの地域は人口約2億人でほぼブラジルと等しく、国内総生産(GDP)は中南米全体の34%、貿易額の50%を占め、極めて競争力の高い地域です。この「同盟」はアジア太平洋地域との貿易・投資の飛躍的拡大を企図した大構想であり、コロンビアはこれにコミットしており、これを推進したいと考えています。日本との経済連携協定(EPA)締結については、昨年9月のサントス大統領訪日の際、野田総理との間

で協定締結に向けて共同研究を行うことが合意され、研究終了を受けて、先ごろ同報告書が提出されました。現在、協定締結に向けた交渉の開始を正式に発表するための最も適当なタイミングを待っているところで、同協定が締結されれば両国関係は新たな段階に入るものと期待しています<sup>(注)</sup>。

(注) 9月25日、サントス大統領と野田総理はニューヨークで首脳会談を行ない、日・コロンビア経済連携協定(EPA)交渉を開始することで一致した。

— コロンビアは中国や韓国とも関係を深めています。サントス政権の対アジア外交の方針についてお聞かせ下さい。

**大使** コロンビアは長期にわたり欧米との関係が主体でしたが、ウリベ政権以降、特にサントス現政権は外交政策におけるアジア重視の姿勢をとっています。アジアにおけるプレゼンス増大のためインドネシアとアラブ首長国連邦に大使館を新設、オーストラリアに大使館を再開し、ニュージーランドも在オーストラリア大使館が兼轄することとなりました。またシンガポールその他に商務官事務所を開き、中国、韓国、トルコ等にPROEXPORT(コロンビア貿易振興機構)を開設するとともに、日本では同機構の活動を再開しました。物理的プレゼンスのみならず、アジア諸国と各種協定が積極的に締結されています。例えば、日本とは投資協定締結に続き、これまで中断されていた二重課税防止条約締結交渉が再開がされることを期待しています。中国とはいくつかの経済・技術協力協定、韓国とは自由貿易協定を締結済みであり、シンガポールとは投資協定締結交渉を開始したほか、東南アジアの国とは初めての航空協定を締結する等、アジアとの関係は前進しています。

コロンビアは1995年以来APEC加盟の希望を表明していますが新規参入に対するモラトリアムが継続しているため実現していません。しかしできる限り早期の加盟を希望しています。アジア中南米協力フォーラム(FEALAC)の会合は本年10月にボゴタにおいて行われる予定です。コロンビアと東アジアおよびアジア

全体との関係はこのようにダイナミックに推移していますが、今後、アジア地域の拡大し得る可能性を考慮すると、コロンビアにとって取り組むべき事項はまだまだ多くあると言えるのではないのでしょうか。

— コロンビアは環太平洋経済連携協定(TPP)への参加の意向を表明していますが、その現状と見通しは如何でしょうか？

**大使** コロンビアはTPPを大きな発展の可能性を秘めたもう一つの媒体であると考え、同協定への参加の意向を表明してきました。同協定は貿易・投資を促進するためのツールであるのみならず、技術移転の促進にも役立ちます。現在すでにコロンビアの輸出の49%、輸入の30%がTPP交渉参加国と行われています。従ってTPPはAPECと同様、コロンビアにとって加盟するのが当然と言えるでしょう。コロンビアはすでにTPP加盟を正式に申請しましたので、近いうちに扉が開かれるものと期待しています。

— 日本とコロンビアの間では最近投資協定が締結されましたが、二国間経済関係についてどう見ておられますか。

**大使** 二国間経済関係はきわめて順調に進展しつつあります。両国関係は非常に良好であるといえます。昨年9月に投資協定が両国首脳の間で締結され、現在両国の立法府による批准待ちですが、早い機会に同手続きが終わることを期待しています。同協定が発効すれば法的保証が確保され、投資がより活発になるでしょう。貿易も好転しており、2011年は近年で最高の約18億ドルに達しました。潜在的可能性はまだ遥かに高いと見られますので、早期のEPA締結が望まれます。

— 両国関係を一層促進、発展させるためには何が必要だとお考えですか。

**大使** 投資環境その他、コロンビアの新しい現実と可能性について日本の関係者に知っていただきたいと思っています。昔からコロンビアに進出しておられる大企業の方々は最近のコロンビアの状況についてもご存知で



すが、多くのその他の企業はご存知ありません。コロンビアの新しい現実についての正しい情報を提供する必要があります。同時にまだ懸案となっている協定をできる限り早期に締結し、二国間経済関係の法的枠組みを整備することも大切です。さらには日本からの観光客の誘致、文化交流の促進等により、コロンビアのビジビリティを高める必要があります。

— コロンビアに進出している日本企業、あるいは今後進出しようとしている日本企業に対し、大使のご意見やアドバイスをお願いします。またブラジルやメキシコへの進出を検討している企業は多いですが、そろそろコロンビアへの進出も考えるべきではないかと思えます。コロンビアがブラジルやメキシコと差別化できる点はあるのでしょうか？

**大使** コロンビアは日本の企業、投資家にきわめて大きな可能性と機会を提供しています。例えば、インフラ、エネルギー、鉱業、農業（食糧）部門などが有望でしょう。またコロンビアでは法の支配、契約尊重の習慣が根づいており、債務のリスクを要請したこともありません。こういったコロンビアの現実を日本国内で広報する上でJETROと経団連の役割は重要であり、これまでも貴重な支援を受けてきました。コロンビアに進出している70%の企業は第3国に輸出しており、メキシコではその割合は51.7%です。コロンビアは米州へのゲートウエーと言えるでしょう。コロンビアは米国はじめ多くの中米、南米諸国とFTAを締結しており、地理的にも米州の真中に位置しているため、特にアジアの国にとって米州進出のための蝶つがいの役割を果たし得ます。あるいは米州全体のハブと言ってもいいでしょう。地理的位置のみならず、労働者の質、教育水準が高く、世銀のDoing business（2011）によればコロンビアにおける収益性は世界的に見ても高い水準にあるとされています。

— カーネーションを中心とした花卉の輸出、ピタヤの輸出等日本で成功しているコロンビアのビジネスについてはいかがでしょうか。

**大使** コロンビアの企業家が日本市場に花卉を輸出するという一見きわめて難しい事業を成功させていることに称賛の念を禁じ得ません。輸出は年々確実な伸びを示し、コロンビアの対日輸出の11%を占め、日本市場におけるカーネーションの67%はコロンビア産です。皆様もご存知のように、高品質のコロンビアコーヒーは知らない人がいないほど日本で人気を博しております。コロンビアコーヒーが日本市場において定着できたのも、コーヒー生産者連合会の日本市場への参入、マーケティング、ポジショニングなどの多岐にわたる長年の努力の成果といえるでしょう。同コーヒー生産者連合会は、1962年に日本でその活動を開始し、本年は東京事務所設立50周年を迎えます。その記念すべき年を共に迎えられることを心より嬉しく感じております。

イエローピタヤは日本市場で継続して人気のある品目です。同じ農業部門では、本年よりトリアトキンス種マンゴーが輸入解禁されました。厳しい検疫規制で知られる日本市場の要望に応えるため、何年もの時間と解禁に向けての綿密な努力が注がれたことが、結果として、今年の7月、日本初輸入に繋がったのです。イエローピタヤと同様に、コロンビアを代表するトロピカルフルーツとして日本で定着していくことと確信しております。

— 『ラテンアメリカ時報』の読者に対してなにかメッセージはありますか。

**大使** ラテンアメリカ協会は日本においてラテンアメリカ諸国のビジビリティを高めるといわれわれラテンアメリカ諸国にとってきわめて有難い、貴重な活動をされており心より感謝いたします。コロンビア大使館としては貴協会の諸活動を全面的に支持したいと思います。また今回はコロンビアの最近の変革と現状および将来の可能性等についてお話しする機会を与えていただき感謝します。日本の人たちがより深くコロンビアを理解し、日本とコロンビアの互恵的関係がますます緊密になることを願っています。

（インタビュアー 協会副会長 伊藤 昌輝）